

検定所

ドイツの法定計量専門家が 計量検定所に来訪

去る2月13日(木)にドイツの法定計量専門家3名が計量検定所を訪れた。来所したのは、ドイツ物理工学研究所 (PTB) 国際法定計量部門 (第9部) 部門長のペーター・ウルビヒ博士 (Dr. Peter Ulbig)、ノルトライン・ヴェストファレン (NRW) 州計量検定部門長エルバハート・プティ博士 (Dr. Eberhard Peith)、同州計量検定部門アンズベルグ検定所主席検定官ディーター・シェーファー氏 (Mr. Dieter Schae)。

この検定所訪問は当初予定されていたが、訪問団から日本の検定機関を訪問したいとの要望が来日直前にあり、招聘を担当した産総研および計工連からの依頼を受け、海外協力の一環として急遽受け入れを決めた。当日は、訪問団の要望にこたえて午前中に深川省の計工連への委託事業として来所前日の2月12日(水)に開催された「ドイツの法定計量制度及び自国量目制度を中心とした意見交換と所内施設の見学を行った。」

荒木所長の英語による歓迎あいさつに引き続き行われた東京都計量行政の概要説明や各種施設見学では、質量計の定期検査制度をはじめとするいくつかのドイツと日本の規制の相違について相互に確認できた。特に彼らの関心が高かったのがタクシメーターの有効期限で、ドイツでは日本の自動はかりのように年度単位の周期で管理しているため年度末などの時期に後続検定が集中している状況なので、日本と同様に検査実施月単位で管



独の法定計量専門家と都検定所長および所員ほかと記念写真

理でできた。加えて、午後から参加した計量行政後藤室長補佐と訪問団に同行の産総研松本国際計量室総括主幹からの適切なフォローもあり、日本の計量制度についての理解が深められたと感じられた。その他、日本と内容量表の計量単位が異なり輸入事業者の一部に混乱がみられるオリブオイルなどの食用油の体積表示についても、質量での表記の利点は十分理解しているものの長い歴史の中で体積表示が慣用化しているため、今変更するのはほぼ不可能な状況と、様々な情報を得ることができた。今回は準備期間もほぼ

商品量目制度の意見交換では、日本の制度について検査課立入検査担当の米山主任が流ちょうなドイツ語で説明と質疑応答に対応したため、非常に活発な意見交換となった。

商品量目制度の意見交換では、日本の制度について検査課立入検査担当の米山主任が流ちょうなドイツ語で説明と質疑応答に対応したため、非常に活発な意見交換となった。

計量検定所では、このような見学を随時受け入れている。ご希望の場合は管理指導課企画調整担当までご連絡ください。// www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp /keiryoku/から。

【編集委員 (50音順)】
▽石井康二▽伊藤信男▽高田慎吾▽高松宏▽竹内芳和▽竹添雅雄▽田中正憲▽奈良広▽山本研一▽横山守二▽吉田勝一 (一社) 東京都計量協会 03-6666-8960

部会・団体

だより

東京計量士会

「令和元年度出前計量教室の実施報告」
社会的・経済的基礎である計量についての知識を身に付けて貰うとともに、計量に親しんでいたことを目的として、小学生高学年を対象として、「出前計量教室」を実施しています。
令和元年度の実績については、次のとおりです。
1、実施校数 12校 (重複あり)
・新型コロナウイルスの

東京計量士会令和2年度定時総会のお知らせ

東京計量士会は、5月22日(金)15時から、東京都中央区のコングレスクエ

計量管理研究部会

2020年度 (令和2年度) 定時総会
5月29日(金)、15時~17時から東京都計量検定所

日本硝子計量器工業協同組合

2020年2月14日(金) 理事会開催。12月理事会議事録の確認、月次会計報告、新年会計報告、

計量協会の計量管理研究部会

ア日本橋3階「ルームA」で開催予定であった2020年度 (令和2年度) 第21回定時総会を中止し、書面表決とします。

お知らせ

この「特集」というようの計量は隔月(偶数月)に発行し、東京都計量協会の会報に代わるものとして全会員に配布しております。会員皆様のご投稿・ご意見・ご質問のほか、各部会等の動きなどは是非お寄せ下さるよう、ご支援をお願いいたします。

計量器のデパート

新センサーSHSを搭載 分銅内蔵 電子天秤 GXシリーズ
温度・湿度のデータを記憶 データロガー 記憶計 SK-L200THIIa
簡単操作で塩分濃度、温度、濁度を測定 塩分濃度計 SK-5S

全国計量器販売事業者連合会・会員 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-5-13
株式会社 三友産業社 電話 03-3241-1824・7016 FAX 03-3241-3036

PDX パワートラックスケール

~新技術採用ロードセル使用~

◎ 保護等級 IP68・IP69K
◎ 落雷に強い耐久性
◎ 過荷重に強い

リモートモニタリング 自己診断機能

国内初！10年保証プランをご提案。

シリーズ 計量と適合性評価 (17) 技術顧問 長野計器 奈良広一

『適合性評価結果の受け入れとCBスキーム』(下)

この原稿を書いている時点において、コロナウィルスの蔓延が進んでおり、「とっぎょう」の計画編集委員会も中止になった。読者の皆様への影響が少なことをお祈りしたい。

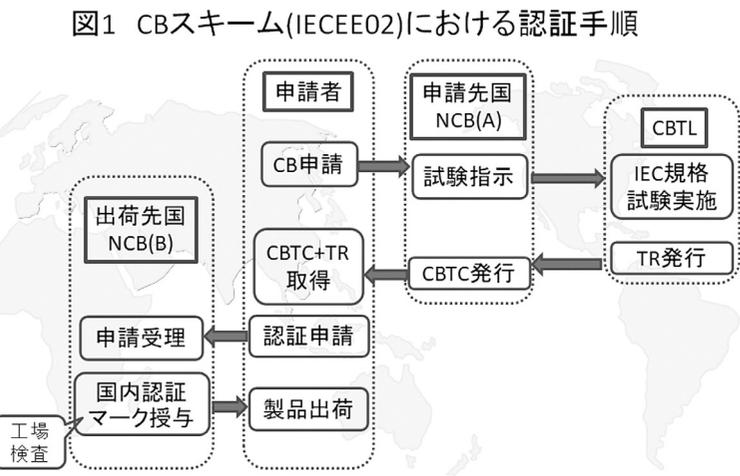


図2 CBTCの発行件数によるNCB数のヒストグラム

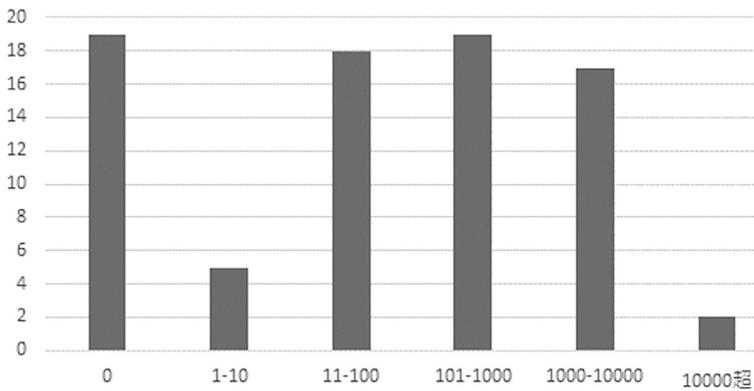
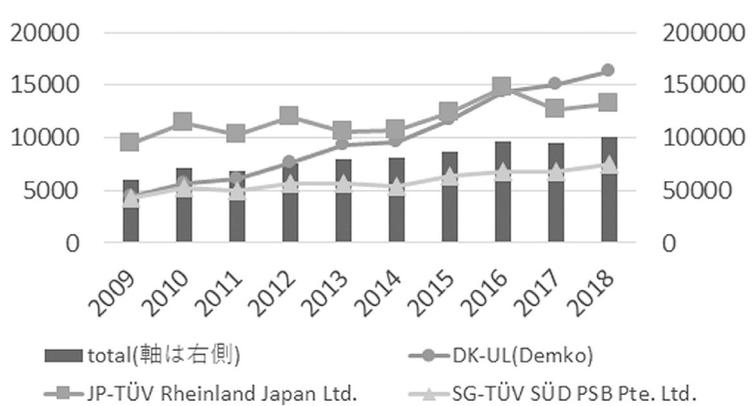


図3 CBTCの発行数

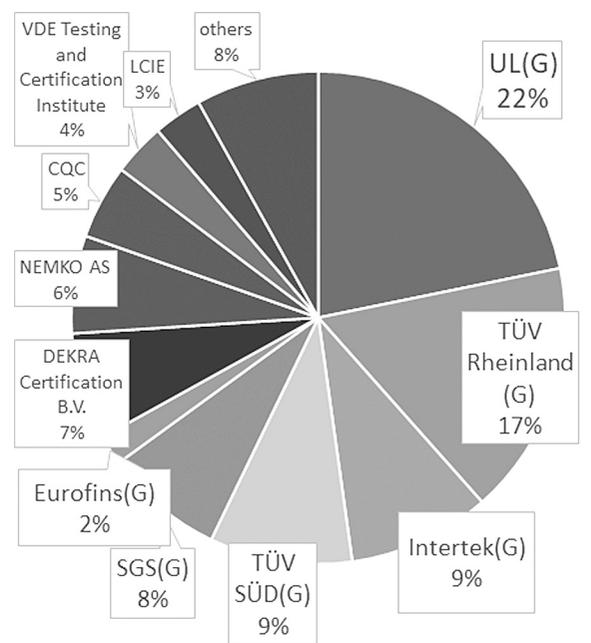


められている、CBスキームを取り上げている。前回はそのメカニクス... (Text continues with details about the certification process and international standards.)

力所に現れることに改めて注目してもらいたい。NCB(A)は、申請を受けて、実際に製品の試験をおこなうCB試験証明書(CB Test Certificate)を「発行」する。一方認証機関(NCB(B)はそのCBTCを「受け入れて」国内の規制に対する国内認証を行う。このようにこの二つの認証機関の機能は異なる。

現時点で発行件数世界第1位の認証機関の発行件数は全体の発行件数の増加率を明確に上回る率で増加している。筆者は発行した証明書の中身まで分析していないが、この変化には明確に当該認証機関の意図があるはずだと考えている。

第4図 認証機関グループの活動



グローバル認証機関グループ内では世界中の国内規制の最新の動きなどが把握されているであろうから、出荷先の国での認証はスムーズであろう。スケールメリットから、カバーされている規格の種類も多数であろうし、複数の国のNCBをグループ内で持つことにより、新しい規格をCBスキームに取り込む際などに主体的に提案するなどのメリットもあるであろう。一国のみで活動する限られた規模の認証機関に対しての優位性は揺らぐ。

Pressure measurement equipment calibration is done by Nagano Instruments Group. Large text advertisement for calibration services.

Rich calibration equipment, complete calibration facilities for various needs. Photos of laboratory equipment and staff working.

Advertisement for Nagano Instruments and Nagano Instrument Co., Ltd. featuring logos for JCSS, IAC-MRA, and IA Japan, along with contact information.

Advertisement for Yokota Instrument Manufacturing Co., Ltd. promoting density and specific gravity measurement equipment. Includes a photo of a density meter and contact details.